

IFA レフェリーキャンプ2020 開催レポート

茨城県内の1級も含めた審判員・審判インストラクター合同でトレーニングを行う2020年シーズン開幕に向けたIFAレフェリーキャンプを開催しました。今回はプロフェッショナルレフェリー(以下「PR」)の村上伸次さんをお迎えし、村上さんにはトレーニングセッション及び座学を行って頂きました。

また、宮城県サッカー協会審判委員会より3年連続でご参加頂き、今回は4名の方が来てくださいました。

<スケジュール>

()内は参加者数

1/11(土)	9:30	フィジカルトレーニング (29)	神栖総合公園 サッカー場
	11:30		
	13:00	PRによるトレーニングセッション (33)	
	15:00		
	16:00	PRによる座学 (33)	
18:00			
1/12(日)	9:00	プラクティカルトレーニング (31)	神栖総合公園 サッカー場
	12:00		



桜井洋輔さん(宮城県 FA) 村上伸次さん(PR) 本間貴雄さん(宮城県 FA)
平塚将啓さん(宮城県 FA) 新田琢人さん(宮城県 FA)

●フィジカルトレーニング●

レフェリートレセン(昨夏開催)の内容をより充実させるため、参加者間の積極的なコミュニケーションを促す目的で以下のトレーニングを行いました。

- ・ペナルティーエリア内でお互いの名前を呼びながらパス交換し、ボール保持者以外は指定されたエクササイズ



- ・手をつなぎコミュニケーションを取りながら
①立ち上がる⇨座る⇨回転など(2人一組)
②立ち上がる⇨座るなど(5人一組)

- ・グループで足を使ってボールのキープ



- ・TIC TOC TOE ゲームによるチームビルディング



●PRによるトレーニングセッション●

- ◆体幹部分への刺激を入れ、肩甲骨・腰回りをほぐしながらトレーニング
急に止まる・反転するのではなく、足裏前方部分全体で地面をとらえて止まる・反転する



- ◆「主審の動き」

- ・対角線式審判法(フィールドを斜めに走りながら常に事象を副審と挟んで監視する主審の動き)

常に視野を高く保ちながら副審を視野に入れる意識を持ちラン+ジョグ+ウォーク
ランは50%から徐々に強度を上げていき最後はスプリント

- ・中盤のポジションからバイタルエリア(ペナルティーエリア付近)の主審サイドにおける動き

細かいステップ→外側に逃げる→ゴール前でのプレー(イメージ)に合わせて動き直す

トレーニングのみに意識が集中しないように
常に視野をあげて事象と副審を視野に入れる意識

- ・スモールピッチでボールの動きに合わせてながら

対角線式審判の実践

首を振るのではなく常に事象と副審を視野に入れる
ボールにだけ寄る、バックステップのみなど制限ある動きを入れることでそれぞれの違いを体で感じ取り、必要な動きを習得



●PRによる座学●

選手としてJFL(現在のJ2相当)で活躍された経験やJリーグ他500試合以上の公式戦で主審を経験されている村上さんに貴重なお話を聞ける場となりました。

トレーニングセッションでもレクチャー頂いた「動きとポジショニング」について、村上さんが実際に主審を担当されたJリーグの試合映像を見ながら、様々な状況で何を考え、意識するかをディスカッションを交えながら更に理解を深めることが出来ました。

具体的なシーンとしては次の3点に絞って解説していただきました。

- ①ビルドアップ時の中盤での動き・ポジショニング
- ②ショートカウンター
- ③ロングカウンター

基本である対角線式審判法と中盤での体の向きや位置取り、動き出しのタイミング、動きの幅など試合状況に合わせて予測すること、そして正しい判定の為に動きやポジショニングが重要だと再認識することが出来ました。



(文:川俣秀)

●プラクティカルトレーニング●

<ペナルティーエリア付近の判定>

- ①主審はセンターライン付近(主審サイドもしくは副審サイド)でステップを踏みながら準備
- ②中盤の2選手が横パス交換し、ペナルティーエリア付近の3か所(主審サイド・中央・副審サイド)に縦パスが入ったところでスタート
- ③パスを受けた選手が1対1の状況からゴールに向かうところで起こる事象を主審と副審で判定

前日に村上さんからレクチャーを受けた動き方(対角線式審判法・動き出し)を頭に入れながら取り組みました。

また、ペナルティーエリア内で決定的な得点の機会の阻止が起こったときの判定基準や、ペナルティーエリア内外際どいエリアでの守備側競技者の反則に対する主審と副審との協力なども再度確認をすることができました。

<オフサイドシチュエーション>

○複数のFWとDFが交差するシーンを連続しての見極め



複数のFWとDFが交差する実践的なシーンを連続してオフサイドの見極めを行いました。

ペアとなってスマートフォンで撮影することで、自身のオフサイドの見極め・姿勢・ステップなどを客観的に見ることができ、また実際に見たものと映像のズレを認識することで今後の際どいオンサイド判定に役立つと思います。



<ゲーム実践>

主審、副審1、副審2それぞれ2人ずつ同時にレフェリング実践(5分交代)

主審、副審とも村上さん、1級審判員がチェックして、気づいた点をその場でフィードバックを行いました。

(文:塚越由貴、柿沼亨)

まずはキャンプ開催にあたりまして神栖総合公園サッカー場、神栖市公民館会議室を会場として利用させていただきました神栖市関係各所の皆様、プラクティカルトレーニングにおいてはデモンストレーターとしてご協力くださいました波崎高校サッカー部の皆様、お忙しいところ調整頂きご指導くださいましたPRの村上伸次さんへ感謝申し上げます。

また、3年連続で宮城県から審判員、審判インストラクターの皆様にもご参加頂き交流を深めながらより良いトレーニングの機会となりました。毎回、遠いところ足を運んで参加して頂けることは茨城県の審判員、インストラクターにとって良い刺激になっていると感じています。宮城県サッカー協会審判委員会の皆様へも厚く御礼申し上げます。

主な参加者は1～3級で普段からアクティブに活動を行っている高校生も含めた審判員、審判インストラクターの他、審判に興味を持ち始めた4級審判員の参加もありました。

村上さんには事前の参加者アンケートをもとに、トレーニングセッションや座学を2日目のプラクティカルトレーニングも通して「動きとポジショニング」というテーマを中心に行ってくださいました。審判員にとっては基本的で重要なテーマであり、殆どの審判員が経験上どこかで悩む時期があるテーマだと思えます。村上さんの経験も踏まえた説明やレクチャーは、改めて「動きとポジショニング」の重要性を再認識するとともに、それぞれの審判員が今後レフェリングを実践していくうえで大変参考になるものだったと思えます。

また、村上さんは座学において現役選手として所属していたJFLチームの解散が決定したこと、その後1級審判員となって新たな目標となっていた国際審判員を目前に年齢制限で叶わなかった経験をお話ししてくださいました。どちらも重い経験でありながら、それぞれの時点において感じたこと、考えたことを聞かせて頂き、それらを乗り越えて現在までPRとして活躍されている村上さんの姿を照らし合わせると、参加者それぞれ感じ入るものがあったと思っています。

年明けのレフェリーキャンプは形を変えながら今回の開催で8年目を迎え、PRの方をお招きするようになってからは5年目となりました。多くの方にご参加頂き、本格的なシーズン開幕へ向けた県内審判員、インストラクターの合同トレーニングとして定着してきているのではないかと感じています。

茨城県審判委員会としては、今後も審判員、インストラクターの育成・強化及びより良い活動環境を目指したサポートをするために様々な取り組みを行っていきたく考えています。今シーズンもどうぞ宜しくお願い致します。

(文:西尾英朗)



波崎高校サッカー部の皆様 ご協力ありがとうございました!!